

# みなみあそ ダイアリー

## 熊本地震災害犠牲者 南阿蘇村追悼式



村では関連死も含め31人が亡くなった平成28年熊本地震からちょうど10年を迎えた4月16日に、役場にて「熊本地震災害犠牲者南阿蘇村追悼式」が開催されました。

式には遺族や村関係者など、約90人が参列。犠牲者名簿奉呈が行われた後、祭壇の前に一斉に黙祷が捧げられました。



犠牲者への黙祷

太田村長は追悼のことばで犠牲者と遺族に対し、「私たちは、この10年で学んだ『命の尊さ』と『絆の大切さ』を決して忘れてはなりません。地震の記憶を風化させないため、さまざまな体験や教訓を次の世代に引き継ぐ覚悟です」との想いを語りました。

最後に参列者が献花を行い、犠牲者の安らかな眠りを祈って閉式となりました。



追悼のことばを述べる太田村長



参列者による献花

## 村指定文化財 「正教寺楼門」が復旧



平成28年熊本地震により全壊した村指定有形文化財「正教寺」の楼門が、約3年の歳月を経て復旧しました。

正教寺の本堂および楼門は、学術的価値が認められたことで令和2年に村指定有形文化財に指定されました。復旧工事は令和5年5月から開始され、専門の宮大工の手によって、再利用可能な元の部材を最大限に活かす伝統的な工法で行われました。

今回の修繕にあたっては、檀家の皆さんからの寄付をはじめ、村の補助金、県の復興基金、ならびに（公財）文化財保護・芸術研究助成財団からの支援を受けて完成に至りました。地域の宝である文化財が、震災を乗り越え、再びその荘厳な姿を現しています。



復旧した正教寺

## 第37回くまもと景観賞を受賞



立野峡谷に架かる南阿蘇鉄道の立野橋梁と第一白川橋梁の景観が、令和7年度第37回熊本県景観賞で部門賞（地域景観賞）を受賞しました。

立野橋梁は大正13年建設、102年の時を経た歴史的構造物で、熊本地震のときも大きな被害がなく建設当時の姿を見せています。また、立野峡谷に架けられた第一白川橋梁は、熊本地震で被災しましたが、南阿蘇鉄道や国・県・住民などが連携して復旧を進め、令和5年には地震前と同じ姿を見ることができました。

橋梁自体が鉄道文化の象徴であり、地域の歴史や生活と密接に関わってきたことが評価され、今回の受賞となりました。



立野橋梁



第一白川橋梁

## タテット施設および タテット広場オープン



4月10日に阿蘇立野ダム展望施設タテットにてタテット広場の安全祈願祭が実施されました。

このタテット広場は平成5年に作成された南阿蘇村(旧長陽村)地域整備計画に登録された建設事業で、阿蘇立野ダム完成後の仮設備ヤード(工事ヤード)の活用と地域振興を目的に、子育て世代や地域の人たちの交流拠点として整備されています。安全祈願祭に参加した太田村長は、「子どもたちののびのびと安全に遊び回り、地域の皆さんが憩い、訪れる人たちが村の自



安全祈願祭でのテープカット

然をより身近に感じられる新たな交流の場となることを期待しています」と述べられました。

安全祈願祭の後は、タテット施設およびタテット広場が正式にオープンし、週末には子育て世代の保護者や子どもたちが広場を訪れ、村をイメージしたオリジナル遊具で遊び回っていました。



週末には多くの人たちが訪れていました



## 太田村長から 名付け親認定証を交付



3月17日にお披露目した村のイメージキャラクターである「ブルル」と「ミルリ」の命名者となる大津百華さんと堤彩陽さんに、太田村長から名付け親認定証が交付されました。

また、名付け親となるお二人には、名前入りのオリジナル水筒と特別なピンバッジが記念品として寄贈されています。記念品を受け取った大津さんは、「記念品をもらってとても嬉しかったし、『ブルル』という名前を私は誇りに思っています」と感想を述べられ、堤さんは「世界に一つだけの記念品をもらって嬉しかったです。南阿蘇が更に活気づくことを期待しています」と感想を述べられました。



記念品として寄贈された名前入りの水筒



記念品として寄贈されたピンバッジ



太田村長と記念撮影を行う大津百華さん



太田村長と記念撮影を行う堤彩陽さん

教育委員に  
新たに就任

3月議会定例会会の同意を得て、村教育委員として、合志正輝さん(第4駐在)が新たに就任され、役場で辞令が交付されました。任期は令和8年4月1日から4年間です。合志さんは就任にあたって「教育大綱にある通り、『持続可能な社会の創り手の育成』や『日本社会に根差したウエルビーイングの向上』などの視点をもって、本村教育の充実に向け真摯に取り組み、子どもたちの未来のために尽力していきたい」と抱負を述べられました。

村人権教育指導員に  
委嘱状を交付

役場で「令和8年度南阿蘇村人権教育指導員委嘱状交付式」が行われ、福本弘二さん(吉田三)、中川弘幸さん(吉田二)、宮田鉄雄さん(吉田三)の3人が指導員として委嘱されました。指導員には、引き続き児童生徒への人権学習支援や、村の啓発活動への助言をいただきます。委嘱を受け、指導員からは「一人ひとりの個性を認め合い、共に支え合える温かな村づくりを」との思いが述べられました。村では指導員と連携し、人権を自分事として捉え、互いに尊重し合える村づくりを推進します。

トルコ政府から  
感謝状を贈呈

2023年2月に発生したトルコ大地震発生時に、村より備蓄用の毛布540枚が被災地に向けて送られたことを受けて、トルコ政府から感謝状が贈呈されました。

毛布はトルコで最も被害が大きかったハタイ県に2週間で到着し、現地の人々に渡されました。トルコと日本を繋ぐ役割を担い、今回村長に感謝状を渡されたエンジジ・ムラートさんは「迅速に対応していただき、本当にありがたかった。熊本地震を経験した南阿蘇からの支援ということので、より心が温かくなった。世界中で支援の輪が広がることを願う」と話されました。

久木野放課後児童クラブ  
ユニットハウスを建設

久木野放課後児童クラブでは、既存の建物での受け入れが困難となっており、待機児童が出てきていることから、新しくユニットハウス(プレハブ構造)が建設されました。令和8年度の入所予定の児童は80人で、この建物には30人程度の児童の入所を想定しています。このユニットハウスは1年ごとのリース契約で、現在は4坪のユニットハウスを6棟連結していますが、児童数が減少した場合は建物を解体することとなっています。村では今後も、児童が快適に過ごせる環境づくりに取り組んでいきます。



村長から辞令を受けとられた合志正輝さん



(写真左から) 福本弘二さん、中川弘幸さん、宮田鉄雄さん



太田村長に感謝状を手渡されたエンジジ・ムラートさん(写真右)



児童を受け入れるユニットハウス

## 白水温泉「瑠璃」にて、地域福祉の向上 「地域福祉貢献に向けた締結式」



白水温泉「瑠璃」にて、地域福祉の向上を目的とした温泉水提供に関する協定の締結式が行われました。式には、同施設を運営する株式会社Wiiの日野英透取締役副社長と水生苑の社会福祉法人白久寿会吉澤恒徳理事長が出席し、村長の立ち会いのもと調印が交わされました。

今回の協定は、「地域の高齢者の皆様が温泉で心身を癒やし、健やかに過ごされることを第一」という株式会社Wiiの温かい想いから実現したものです。提供される温泉水は、施設利用者の皆さんの健康づくりやリフレッシュに役立てられます。

村では今後も、こうした企業などとの連携の輪を広げ、誰もが安心して暮らせる健全やかな地域づくりを推進してまいります。



(写真左から)日野取締役副社長、村長、吉澤理事長

## 「事業承継・創業連携支援に 関する協定書」を締結



村、商工会、金融機関、保証協会など計7機関が手を取り合い、一丸となつて中小企業をサポートする体制を整えるため、「事業承継・創業連携支援に関する協定書」が締結されました。

村には長年愛されてきた飲食店や商店など中小事業者が数多くありますが、経営者の高齢化や後継者不足により、貴重な「地域の宝」が失われかねない現状です。一方で村の豊かな環境に魅力を感じ、新しく事業を始めたいという「創業へのニーズも高まっています。こうした課題の解決を目的に、今後、専門的な知識を持つ各機関が「一つの

チーム」となり、中小企業の皆さんの挑戦や大切な事業のバトンを全力でバックアップしていく予定です。



7機関の代表者

## 学校法人イデア熊本アジア学園 イデアITカレッジ阿蘇と村が 包括連携協定を締結



役場庁議室にて、村と学校法人イデア熊本アジア学園イデアITカレッジ阿蘇（IICA）による包括連携協定締結式が行われました。この協定は、地域課題の解決および地域経済の活性化を図り、持続可能な地域社会の実現を図ることを目的としたものです。この締結を受け、IICAの井手修身学長は「学生の力で南阿蘇を元気づけていきたい」と語られました。

今後村とIICAは本協定の連携事項をもとに村内の事業者や村外企業との連携を図り、観光・農業・商業・教育などA-やDX分野に関する地域活性化の取組みを促進すると共に、学校運営上の校舎、交通手段、広報、学生の住居環境などの課題解決に向けて取り組む予定です。



協定書に署名された村長と井手学長（写真右）

## 災害時における段ボール製 簡易ベッド等の優先供給に 関する協定締結



今年が熊本地震から10年の節目を迎えることから、役場大会議室にて宇土市の王子コンテナ株式会社熊本工場との協定締結式が行われました。これは今後もあらゆる災害を想定し、避難される村民の皆さまの避難所生活によるストレスの緩和や、避難所の質の向上のため、段ボール製ベッドなどを村の要請に基づき優先的な供給と設置をすることを目的としています。

柳原工場長は「段ボールベッドは工具やテープも不要で、5分で組み立てが可能。災害時にすぐに提供できるよう準備しているので、役立つことを願う」と話されました。



協定書に署名された村長と柳原工場長（写真右）